

1. 単元名 よりよい生活をつくる音楽

2. 単元の目標

- ・さまざまな歌を歌ったり、トーンチャイムで生徒一人一人が音を担当して合奏したり、オペラの中の歌の部分を鑑賞したりして、その音楽の成り立ちや背景、曲想を理解する。また、自分のふだんの生活の中に音楽があることに気づき、その理由を理解する。(知識・技能)
- ・その音楽はなぜ作られたのか、どのようなことを伝えるために作られたのか、何を目的に演奏するのかを考え、その音楽のよさやおもしろさなどを感じ取りながら、どのように表現したらいいのかについて、思いや意図を持つ。(思考・判断・表現)
- ・音楽を楽しむことができない生活が訪れたらどう思うか、また自分はどうするだろうかということを考え、みんなが音楽を楽しむことのできる未来を作るためにどうすればいいのかを話し合い、思いを共有して音楽に取り組む。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、歌「校歌」「まほうのすず」「おいらはちよいとこのへんで」「木こりの歌」「木をはこぶ歌」「ビリーブ」「翼をください」「輝く夏の日に」、トーンチャイムの合奏「ドレミの歌」「よろこびの歌」、音楽鑑賞「オペラ『魔笛』」「魔王」を教材として取り上げる。また、身のまわりにある音楽や生徒が個人的に家庭などで聴いたり歌ったりしている音楽についても、触れる。

本学級に1年生が入学した時に、最初に歌うのは、校歌である。校歌は毎年、生徒たちが好んで歌う歌であるが、中学生生活への期待感を持っていることがわかる。「まほうのすず」「おいらはちよいとこのへんで」はオペラ「魔笛」の劇中歌であり、DVDを鑑賞しながら、物語の中の歌の役割や楽しさを感じ取るようにしている。「木こりの歌」「木をはこぶ歌」は、学級でとりくむ劇「やんすけと やんすけと やんすけと」の劇中歌であり、劇をしながら歌うよさや価値を考えることができる。「ビリーブ」「翼をください」は、教育実習生の実習が終わるときにおこなう行事「教生先生ありがどうの会」で歌った歌である。

本学級では、器楽でトーンチャイムを使用している。一人一音の役割を持って、グループで協力して音楽を作る楽しさがある。

(2) 生徒観

本学級は、知的障害(4歳～9歳くらい)のある生徒が15名在籍する中学校の特別支援学級である。付属小学校の隣にある特別支援棟の2階で、知的障害のある生徒のための教育課程によって学んでいる。

この単元をおこなった音楽2グループは、1年～3年の在籍生徒のうち、8名で成り立っている学習グループで1年生4人、2年生3人、3年生1人である。

生徒たちの実態としては、「自分のことは自分でしよう(身辺自立)」「自分の思ったことをじょうずに相手に伝えよう」「友達との関りをうまく持てるような行動をしよう」「相手の気持ちを考えよう」というような課題を持つ発達段階にある。

本単元においては、歌唱、器楽合奏、鑑賞に取り組んだ後に、生徒に少しずつ、質問をしていった。一

人一人の生徒の思いをみんなで共有し、教師が共感を持ってとりあげていくことで、生徒たちが自分のことばで思いを述べる、または書くことができるようになっていった。

(3) 指導観

本単元の指導では、現在音楽を楽しんでいる自分の生活を実感し、もし、将来それができない状況になるとどう思うか、将来もみんなが好きな音楽を楽しむにはどうしたらいいのかを生徒たちに問いかけていった。主な質問と生徒の答えは以下のとおりである。

(質問) 今まで、歌った歌や演奏した曲、鑑賞した曲の中で、「好きな曲」「楽しい曲」「歌ったり演奏したり視聴したりしてよかった曲」は、どれですか。それは、なぜですか。

- (答え) ・「まほうのすず」です。まほうのすずは、歌詞の中に「いかりはきえる」というところがあって、みんなが仲良くなるというところがよかったです。
- ・「おいらはちよいとこのへんで」を歌うと、パパゲーノに「お仕事がんばってな。けんかはやめるから」と言いたい気持ちになる。
 - ・「ドレミの歌」「よろこびの歌」の合奏。トーンチャイムの音が合わさると、すごくメロディがすてきだと思う。トーンチャイムを鳴らしていると楽しい気持ちになる。

(質問) (その場に) 音楽があるといいことは何でしょう。

- (答え) ・4月に「校歌」を歌うと、中学生になった、明るい気持ちになります。
- ・教生先生ありがたい会で「ビリーブ」や「翼をください」を歌うと、教生先生の心にわたしたちのことが残ったり、教生先生がこの学校にきてよかったと思ったりする。

(質問) 音楽が楽しいのは、どんな時ですか。その時、あなたはどんなことをしていますか。

- (答え) ・音楽の時間(授業)に劇の歌をみんなで大きな声で歌っているとき。
- ・家に帰ってゆっくりして、「ビリーブ」やいろいろな歌を大きな声で歌っている時。
 - ・家で好きなアーティストの曲を気持ちよく聞いている時。ちょっとだけ歌う時がある。

(質問) おとなになったら、どんなふうに音楽を楽しみたいですか。

- (答え) ・好きなアーティストのコンサートに家族で行きたい。
- ・カラオケに行き歌ったり、車に乗って曲を聞いたり、ユーチューブに出て歌ったりしたい。

(質問) もし、音楽を楽しむことができない状況になったらどう思いますか。その時、あなたはどうしますか。

- (答え) ・悲しいと思う。わたしが、自分でコンサートで歌って、コンサートを作る。
- ・とても悲しい。音楽のせかいをとりもどすために、じぶんが歌手になって歌う。
 - ・音楽が聞けないことになったら、少しさみしいし、イライラするけれど、一人でも聞く。一人でも歌う。

(質問) みんながしあわせになる音楽は、どんな音楽だと思いますか。

- (答え) ・歌詞が前むきな歌。はげましてくれる歌。
- ・自分のゆめを歌っている、元気が出る歌。

(質問) 音楽の力で、戦争をやめさせたり、みんなが楽しく生きたりするためには、どんなことができるでしょうか。

- (答え) ・思いをこめた音楽を作る。
- ・心があたたかくなるような歌、平和になるような歌を歌う。

学校や家庭など自分の生活の中で音楽を楽しんでいることを生徒たちに実感させ、おとなになったら

どんなふうに音楽を楽しみたいか自分の未来像を考えさせた。そして、自分の好きなことができない状況になった時どう思うかを問い、その状況を回避するために自分はどう行動するのかを考えさせた。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

相互性…現在音楽を楽しんでいる自分の生活を実感し、もし、将来それができない状況になるとどう思うかを考えることにより、現在の生活が未来につながっていると自覚すること

公平性…現在の生活が楽しく平和であればいいというだけでなく、将来にわたって平和な生活を作ることが大切であること

連携性…生活の中に音楽があることのよさを見つけて、他人とのつながりを深めること

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

現在音楽を楽しんでいる自分の生活を実感し、もし将来それができない状況になるとどう思うか、将来もみんなが好きな音楽を楽しむにはどうしたらいいのかを考えられるようになる。

つながりを尊重する態度

生活の中に音楽があることのよさを見つけて、音楽を生かして他人とつながることができるようになる。

進んで参加する態度

将来にわたって平和な生活を作るために、自分はどうか考え、周囲に思いを伝え、進んで音楽に取り組む。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

現在の生活が楽しく平和であればいいというだけでなく、将来にわたって平和な生活を作る。

幸福感を重視する

現在音楽を楽しんでいる自分の生活を実感し、将来もみんなが好きな音楽を楽しめる生活をするにはどうしたらいいのか考える。

・達成が期待される SDGs

3 健康・福祉

4 教育

16 平和・公正

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 歌を歌ったり、トーンチャイムで生徒一人一人が音を担当して合奏したり、オペラの中の歌の部分を鑑賞したりして、その音楽の成り立ちや背景、曲想を理解する。	① その音楽はなぜ作られたのか、どのようなことを伝えるために作られたのか、何を目的に演奏するのかを考え、その音楽のよさやおもしろさなどを感じ取る。	① 音楽を楽しむことができない生活が訪れたらどう思うか、また自分はどうか、どう行動するか考える。
② ふだんの生活の中に音楽があることに気づき、その理由を理解する。	② その場に合わせてどのように表現したらいいのかについて、思いや意図を持つ。	② みんなが音楽を楽しむことのできる未来を作るためにどうすればいいのかを意見を出し合い、思いを共有し、その上で音楽に取り組む。

5 単元の指導計画（全18時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 歌唱にとりくむ。</p> <p>「校歌」 「まほうのすず」「おいらはちよいとこのへんで」 （オペラ「魔笛」より） 「ビリーブ」「翼をください」 （教生先生ありがとうの会で歌うため） 「木こりの歌」「木をはこぶ歌」 （「やん助と やん助と やん助と」の劇中歌） 「かがやく夏の日に」（スウェーデン民謡）</p>	<p>○その歌はなぜ作られたのか、どのようなことを伝えるために作られたのか、何を目的に歌うのかを考え、その曲調や歌詞のよさやおもしろさなどを感じ取らせる。</p> <p>○行事や劇で歌うために、どのように表現したらいいかを考えさせる。</p>	<p>ア① （知・技） イ①② （思・断・表）</p>
<p>2 器楽にとりくむ。</p> <p>「ドレミの歌」「よろこびの歌」 （トーンチャイムを使った合奏）</p>	<p>○一人一音の役割を持って、グループで協力して音楽を作ることを楽しませる。</p>	<p>ア① （知・技）</p>
<p>3 音楽鑑賞をする。</p> <p>オペラ「魔笛」のDVDを視聴し、「おいらはちよいとこのへんで」「まほうのすず」の歌われる場面を中心に歌が話の進行に果たす役割を知る。</p>	<p>○物語の中の歌の役割や楽しさを感じ取らせる。</p>	<p>イ① （思・断・表）</p>
<p>4 自分のふだんの生活の中にある音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんの生活の中にどんな音楽がありますか。 ・歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽を聞いたりして楽しいのは、どんな時ですか。 ・その時、どんなふうになっていますか。 	<p>○学校以外の生活で、どのような音楽に触れているか、どのようにして楽しんでいるかを振り返り、体験や思いをグループで共有させる。</p>	<p>ア② （知・技）</p>
<p>5 「音楽があるといいこと」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌があるといいこと。 ・テレビやユーチューブで音楽が聞けるといいこと ・行事や劇で歌を歌うといいこと。 	<p>○現在音楽を楽しんでいる自分の生活を実感させる。</p>	<p>イ① （思・断・表）</p>
<p>6 おとなになった自分の生活と音楽の関りを考える。未来の生活に対する願いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おとなになった時、どんなふうに歌を歌ったり楽器を演奏したり音楽を聞いたりしたいと思いますか。 ・もし、音楽を歌ったり聞いたりできなくなったらどう思いますか。 	<p>○カラオケに行く、コンサートやライブに行く、歌手になる、車で音楽を聞くなど、生徒の答えを共感を持って聞く。</p> <p>○音楽を歌ったり聞いたりできない状況は、戦争なのか災害なのかと伝え、生徒の想像を助ける。</p>	<p>ウ① （主体的）</p>
<p>7 音楽を楽しむことができない生活が訪れたら、自分はどうしたいか、どう行動するか考える。みんなが音楽を楽しむことのできる未来を作るためにどうすればいいのか意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが幸せになる音楽は、どんな音楽ですか。 ・音楽の力で戦争をやめさせたり、みんなが楽しく生きたりするために、どんなことができますか。 	<p>○自分がコンサートで歌う、音楽のせかいをとりもどすために、自分が歌手になる、一人でも聞くし一人でも歌うといった生徒が今思いつく行動について、全体で共有する。</p> <p>○歌詞が前向きな歌を歌ったり、思いをこめた音楽を作ったりすることで、平和な未来が持続するという意見を全体で共有する。</p>	<p>ウ①② （主体的）</p>
<p>8 未来の生活に対する願いを共有した上で、音楽を歌ったり演奏したり聞いたりする。</p>	<p>○より主体的に取り組むことにより、表現が変容する。</p>	<p>ウ② （主体的）</p>